

令和5年度 江戸川区立新田小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考える子 ・思いやりのある子 ・体を鍛える子 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供笑顔があふれる楽しい学校 ○教職員が育てることの喜びに満ちた学校 ○保護者、地域から信頼され愛される学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>○職層に応じて、校内研究や若手研修会の中で、主体的な学びや日々の児童の成長につながる実践を重ねることができた。コロナ禍でも、タブレットを活用しながら、授業改善に努めることができた。</p> <p><課題>○若手教員、ミドルリーダーの育成と学校組織の活性化。 ○心身ともに健康で、学び合い、高め合うことができる児童の育成。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」において、令和8年度までにC・D層の差を解消を目指す。 ・東京ベーシックドリルの結果分析を繰り返して、既習事項の定着に努める。 ・「江戸川っ子 study week」では、ドリルパークに取り組み、家庭での学習週間を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会を学期に3回以上行い、「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」の成果と課題を明らかにしていき、学力の向上につなげる。 ・東京ベーシックドリルの診断テストで70%以上の正答率を全校児童の60%にする。 ・ドリルパークの取組率を10%向上させる。 	A	B	基礎基本を繰り返しながら、アクションプランにそって、学力向上にさらに努めていく。	A	具体的な取組みを実施していただき、一人一人の学力の向上に努めていただきたい。今後も、学力向上のための目標に向かって実施してほしい。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の充実 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じた、探求的な学習を通して、主体的に学び続け、力や読書科で培った力を各教等で生かせるようにする。 ・図書館司書と連携を取りながら、学校図書館の整備や区立図書館の活用を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「江戸川っ子 読書科コンクール」に向けて、調べ学習に積極的に取り組ませる。 ・各学年学期に1回は、探求的な学習に取り組みせ、区立図書館の活用等を活性化させる。 	A	A	読み聞かせボランティアも復活し、読書に対しての環境も充実してきている。これからも、区立図書館との連携を充実させ読書科を推進していく。	A	読書、読み聞かせボランティアなど、本に触れる機会が多く子供たちの成長につながっていると考えられる。これからの本に出会えるような取り組みに期待している。カードになってことで、借りやすくなり、回数も増えて良い方向に向かうと思う。
	教科担任制の導入 ・高学年において、教科担任制を導入することで学力の向上、小中の連携につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組む、学びを深める授業改善に取り組む、学力の向上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教員がかわかることで授業が楽しいと答える児童が90パーセント以上にする。 	A	A	児童を複数の教員で指導することで、一人一人の児童理解に努め、授業改善に取り組んでいる。	A	教科によって担任が変わることは、児童も緊張感があるがよい。苦手な教科がある児童に対して、より個別に指導することができるようになる。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動による運動意欲の向上 ・校内研究の体育科「主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善」ポートフォリオの活用を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日朝の新田プレタイムや縦列班遊びにおいて、様々な運動を体験する。 ・校内研究でのポートフォリオを活用することで、ビデオや写真で運動中の様子や振り返ることで、運動に対する関心意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日に30分以上運動する児童を80%以上にする。 ・学期に1回、ポートフォリオ報告会を、友達、家庭、地域に行うことで、運動技能を向上させようとさらに運動に取り組める児童を80%を目指す。 	A	A	新田プレタイムを今後も充実させ、目標をもって取り組ませていく。ポートフォリオを通して、運動に関心をもたせ体力向上につなげていく。	A	子供たちの様子から、運動に対する意欲を感じる。低学年から興味をもたせたり、関心を少しでも高めたりできるようにすれば、体力向上につながる。学期に1回は、報告をしていただきたい。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、研修を実施する。また若手研修も実施し、若手教員の理解を深める。また、月1回校内支援委員会等において情報共有を改善を図る。 ・復籍交流、通常学級と固定学級との交流を積極的に実施していく。 	A	A	すべての児童にわかる授業づくりを目指し、授業改善に努める。配慮を要する児童について、全教職員と共通理解をしながら、これからも指導を進めていく。	A	児童数も少ないので、引き続き異学年などの交流を多く取り入れ充実させてほしい。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校についての授業を毎学期1回以上行う。 ・毎週火曜日に行う生活指導夕会で情報交換と共有を行う。 ・hyper-QUの結果をもとに、児童にとってよりよい環境づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しい、何かあった時に相談できる人がいる児童を90%以上にする。 ・毎週火曜日に行う生活指導夕会での情報共有を、週末には解決できるように指導を進める。 	A	A	生活指導夕会を火曜日に行うことで、指導の変容を確認することができ、具体的な指導を共有しながら対応することができる。いじめ、不登校も早期発見できるように、未然に防ぐことに努めていく。	A	これから取り組み力を入れていただきたい。報道等のようにSNS等のやり取りで、いじめがより陰湿になっているように感じるので、指導を引き続きお願いしたい。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の様子をホームページで公開し、情報を発信していく。 ・学校公開や運動会等の行事を公開していくことで、広く学校の取組を紹介する機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでは、学習や生活の様子、給食の献立等を日々掲載していく。 ・学校公開を年3回行い、全家庭の参観を目指す。 	A	A	教育活動の様子を、定期的にホームページ等でこれからも紹介していく。	A	これからのホームページの充実とさらなる情報公開を期待している。コロナ禍で学校に行くことができなかったが、学校に行ったら実際に参観することで、内容などがとてもわかりやすい。学校公開には、時間が許す限り参加していきたい。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会で、学校経営方針を伝え、教育活動について理解を深めていただく。 ・成果と課題を明らかにするために、評価アンケートを実施し、改善に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の学校評議員会を行い、進捗状況の説明を行い、改善に努めていく。 ・2学期末に全家庭に学校評価アンケートを実施し、学校評議員会での評価と併せて、次年度に向けての改善に努めていく。 	B	A	教育活動等の進捗状況の説明を適切に行えるよう取り組んでいく。	B	学校評議員として、これからも活動に貢献できるようにもっと協力し取り組んでいく。年3回とあるが、学期に1回ずつ開催できたらよい。
	<関係機関との連携> ・SSW、児童相談所等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と情報共有を図りながら、連携を強化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSW、児童相談所においては、月1回程度情報共有等を行っていく。 	A	A	関係機関と連携を図りながら、進めることができる。	A	これからの、学校だけではなく、専門家にアドバイスを受けるなどの連携をとってほしい。
	地域とのコミュニティづくり 「SinDenGoals Community Project」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びを地域の方に発信することで、交流や絆を育み持続可能なコミュニティづくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の体育を中心に、学校公開、運動会等の行事ごとに、地域の方から、アドバイスをいただき、自分の学びを深めていく。 	A	A	地域の方に積極的に参加していただくようこれからも、努めていく。	A	コロナ禍で実施できなかった昨年度とから、実施できることをこれからも増やしていただきたい。6年生と地域の交流はとてもよい取り組み。
特色ある教育の展開	共生社会に向けた基礎づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度オリジナルのSDGsのシンボルマークを作成したので、それを提示することで、共生社会の基礎づくりに取り組む意欲を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・「SinDenGoals」を言葉に、実践できる児童が80%になるように取り組む。 	A	A	学習発表会においても、「SinDenGoals」を取り入れた活動ができている。	A	現在、国も世間も非常に力を入れているのでこれからも取り組んでほしい。SDGs「新田」の頭文字、ヤーしんのシンボルマークにより児童の意識も変わり、取り組みやすい。